



排水機運営費を農地に賦課 市の認識は

山岡 幹雄 議員

非農用地は市が負担、市民に向け啓発

産業建設部長



▲津島市の藤浪駅前市街化区域計画図

問 雑種地、農地は排水機場ポンプで排水する。土地改良区は農地に賦課金が課せられ負担が多過ぎ、宅地、雑種地には賦課金が課せられていない状況を市は認識しているか。

答 ほぼ全域が海拔ゼロメートル地帯である本市は雨水の自然排水が困難である。農業の生産性及び収益の向上を目的に、

早くから整備された農業用の排水路や排水機場により、平常時、洪水時とも土地改良区が管理している。その後、混住化の進展とともに宅地や雑種地など非農用地が増加する一方、施設の維持管理費については受益農家の賦課金で賄われているのが現状であった。

このため、土地改良区と関係市町村で協議会を

設立し、非農用地に係る維持管理費を関係市町村で負担をしている。

今後は土地改良区への支援と、市民に向けて、農用地の排水路や排水機場が地域全体に果たす役割について啓発をする。

藤浪駅付近の市街化整備は

問 津島市が名鉄藤浪駅南側35ヘクタールを市街化区域に編入する調査を始めた。本市の計画の現状は。

答 市内鉄道駅8駅周辺の評価分析を実施。この評価分析結果を踏まえ、優先的に市街地整備に勝幡駅、藤浪駅、佐屋駅、富吉駅周辺を設定し、現在まちづくりビジョンの策定に向け、関係総代との意見交換会を開催している。

問 津島市が市街化編入を議会の承認を得て本市も含める新聞報道があった。

市街化区域編入について津島市が開始したことにより、市はどのようにしていくのか。

答 本市の進める4駅周辺の市街地整備事業における藤浪駅周辺整備と、津島市が進める藤浪駅南側の市街地整備事業の事業スケジュールが一致した場合には、相互に連携した事業展開が可能であると考えている。

その他の質問

- 異常気象について
- 総代制度について